

第4学年 道徳学習指導案

ろ組 男子 19名 女子 20名 計 39名
指 導 者 中 村 太 一

1 主 題 名 あこがれのキャプテン

1-5) 自分の特徴に気づき、よい所を伸ばす。

2 主題について

(1) 主題の位置とねらい

この期の子どもたちは、自分のよい所や悪い所に目を向けるとともに、自分のよい所を伸ばそうとすることの大切さに気づき、自分のよい所を積極的に伸ばしていこうと努力してきている。しかし、あきらめや無関心などから自分の特徴に気付く事ができなかつたり、目先のことに気をとられたり、友達などからの忠告を素直に聞くことができなかつたりして、自分のよい所を伸ばしていこうと努力することができなかつたりすることがある。このようなことから、この期の子どもたちに、自分の特徴に気づき、自分のよい所を伸ばしていこうと努力をすることの大切さを理解させ、自分のよい所を伸ばすことに意欲的に取り組みながら生活していこうとする態度を育てる必要がある。

本主題では、自分のよい所を伸ばしたいと考えながらも行動することができない場面で生じる心情や心情の変化を、自らの体験場面での内面と関係付けて類推しながら追究する活動を通して、自分の特徴に気付いたり、自分のよい所を伸ばしたりしていくことのよさを理解し、自分のよい所を伸ばしていくために大切にしたいことを考えながら生活していこうとする心情を育てることをねらいとしている。さらには、自分の特徴に気づき、よい所を伸ばそうとする生き方は、自他共に意欲的に生活していこうとすることや互いのよい所を認め合い高め合いながら生活することができるようになるということに繋がるというよさを実感し、これからの生活に生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は、自分の特徴を知って、悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす生き方を追究していく学習へと発展していくことになる。

(2) 指導の基本的な立場

自分の特徴に気づき、よい所を伸ばすことについて、人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるという立場から分析すると右の図のようになる。

自分の特徴に気づき、よい所を伸ばすためには、あきらめや無関心、思慮不足、反発心などの心の弱さを乗り越えて、自分の特徴や自分のよい所を伸ばしていくことのよさを理解し、自分のよい所を伸ばす努力の大切さを考えて行動していこうとする意欲や態度が求められる。

それを支えるものが、「自分のよさが理解できる」ことや「もっと自分を高めたい」といった意義であり、「なりたい自分の姿を考える」「自分のよさを考える」といった心構えであると考えることができる。

ここでは自分の特徴を知り、よりよく自分を伸ばしていこうとすることで、互いに個性を認め合いながら、自他共に調和的に生きたいとい



◎は重点的な学習内容

う願いを基に、自分の特徴やよい所を伸ばしていくことよさを理解し、自分のよい所を伸ばすことに意欲的に取り組みながら生活しようとするを旨とした生き方とし、その実践を支える見方・考え方・感じ方(意義や心構え)と実践を阻む心の弱さの両面から、人間理解を深めていくことになる。

具体的には、自分の特徴に気付き、よい所を伸ばすことが、自分のよさをより理解することになり、もっと自分を高めたいという気持ちになることやそのことにより周りの人たちと信頼関係が深まり、互いに認め合いながら生活できるようになることを理解させる。一方で、そうありたいと思いついながらも思慮不足やあきらめ、無関心や反発心などの心の弱さからなかなか実践できないことがあることにも気付かせる。そして、それらの弱さと望ましい生き方との間に起こる心の葛藤を乗り越えていくためには、なりたい自分の姿を考える、自分のよさを考える、自分に自信をもつ、自分にとって大切なことを考えるなどの心構えが大切であることも理解させる。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では、読み物資料「あこがれのキャプテン」(自作資料)を取り上げることにした。この資料は、次のような粗筋である。

バレーボールのスポーツ少年団に入っているまどかは、キャプテンのあかねさんに憧れて、一生懸命に練習に取り組んでいる。しかし、あかねと同じ練習用のTシャツを買ってもらったまどかは汚したくないなどの気持ちから、中途半端なプレーをしてしまう。そのことをあかねに指摘され、自分の憧れていたものについて考えるという内容である。

この資料を扱うに際し、話の内容の理解を深め、まどかやあかねの心情に十分に触れさせるために、録音CDや一枚絵を活用する。また、まどかの立場に自分を置き替えて考えさせたり、子どもたちの体験場面を振り返らせたりして、そこでの心情とまどかの心情とを関係付けて類推させることができるようにし、まどかの心情や心情の変化に自我関与させる。

具体的には、まず資料の一読後の感想から、まどかがあかねのどのようなところに憧れ、自分もそうなりたいと思っていたのか、そして、そのまどかがTシャツを買ってもらった後で中途半端なプレーをしてしまった場面での心の葛藤を追究させる。

さらに、心の葛藤を乗り越えるために、まどかが大切にすればよかったと思う意義・心構えを追究させるが、その際、対話活動を通して、重点とする意義や心構えに迫ることができるようにする。また、授業の中で大切に感じたことを、自分の生活の中でとらえ直してまとめることを通して、これからの自分の生き方について、具体的なイメージをもつことができるようにする。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、自分の特徴やよい所を伸ばしていくことよさを理解し、自分のよい所を伸ばすことに意欲的に取り組みながら生活しようとするを旨とする生き方について、実際の生活場面においても、積極的にかかわっていこうとする意欲につながるものであると考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことにかかわる経験や、実践を阻む心の弱さ、実践を支える意義や心構えについての認識は、以下の通りである。

〔表1〕自分のよさよい所を伸ばそうとすることができた場面(総反応数56)とそのときの感情(総反応数56)についての認識

自分のよさを伸ばそうとすることができた場面	反応数(人)	そのときの感情	反応数(人)	そのときの感情	反応数(人)
自分の行動面	23	うれしい	26	他の人に認められる	3
自分の性格	18	気持ちがすっきりする	13	自分に返ってくる	2
人とのかかわり方	9	相手の気持ちになれる	6	自分がそうありたいと思った	2
自分の能力	6	自分の成長を感じる	5	前向きな気持ちになれる	1

〔表2〕実践を阻む心の弱さについての認識 (総反応数45)

心の弱さ	反応数(人)	心の弱さ	反応数(人)
思慮不足(あまりよく考えていなかった)	15	怠惰な感情(めんどうだ)	6
あきらめ(自分にはできない)	10	反発心(人から指摘されていやだった)	4
外への欲求(ほかにしたいことがあった)	7	無関心(どうでもいい)	3

〔表3〕 実践を支える意義や心構えについての認識

(総反応数123)

意義・心構え		反応数(人)	意義・心構え		反応数(人)	意義・心構え		反応数(人)
対自己	自分の将来のためになる	12	対他者	助かる	18	対集団・社会	よいところを真似できる	14
	仲間や友達が増える	10		うれしい気持ちになる	14		みんなで助け合える	8
	うれしい気持ちになる	9		喜んでくれる	9		みんながうれしい	8
	人を喜ばせることができる	6		心配しないですむ	2		みんなが幸せになる	3
	夢や目標を達成できる	6						
	いい所が増えそう	3						
	認めてもらえる	1						

〔表1〕から、これまでの生活場面における様々な経験において、自分の行動面に対してよさを感じたことのある子どもが多いことがわかる。このことは、子どもたちがまだ実際の行為面に目が向きがちで、その行為の根底にある自分の内面にまで気付くことができているというを示している。しかし、自分ができることや得意なことといった能力面に目が向いている子どもが少ないことより、道徳的に価値ある行為をよしとする意識を子どもたちが持ち始めていることもわかる。また、〔表2〕において、自分のよい所を伸ばすことに対して、意識が低かったり、意欲に欠けたりする面が見られることもわかる。〔表3〕では「自分の将来のためになる」「夢や目標を達成できそう」といった自己実現を意識した意義や心構えなど、自己に対する認識が多いが、「仲間や友達が増える」「人を喜ばせることができる」といった他者や集団・社会を意識した意義・心構えを感じている子どもたちもいることが分かる。

これらの実態から、自分の特徴に気付き、よい所を伸ばすことへの意義や心構え、心の弱さについて、自分のこれまでの体験やその中で感じた心情への振り返りを通して、見方・考え方・感じ方を十分に深めたり広げたりさせるとともに、多様な見方・考え方・感じ方と触れ合う中で、重点とする指導内容にかかわる意義等について追究を深めさせるようにする必要がある。

一方、道徳の時間において、本学級の子どもたちは、自分の考えについて積極的に発表したり、友達の考えと自分の気持ちとを比較して考えてみたりしながら見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりしてきているが、学んだことを自分がどのように生かせるかという具体的なイメージを持つまでには至っていない。そこで、学んだことをこれからの自分の生き方の中でとらえる中で、具体的なイメージを持ち、実践への意欲を高めていけるような働きかけを具体化していく必要がある。

(4) 指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては、自分の特徴を知り、よい所を伸ばすことに対するよさの実感を深める中で、子どもたちがこれまでの様々な体験で感じてきた道徳的価値にかかわる意識が、これからの生き方へと連続し、発展していくようにしたい。

ア この内容にかかわる生き方についての切実な問題意識をもたせるために、これまでの体験場面を振り返らせ、自分のよい所を伸ばしたいという思いと、自分のよい所を伸ばすことにつなげることができなかったときの心情を対比させ、その矛盾から子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させる。

イ まどかの心情や心情の変化に十分に共感させるために、まず、まどかがあかねに憧れていることやまどかが中途半端なプレーをあかねから指摘され、自分のなりたいたい姿について考える場面に焦点化する。そこでは、自らの体験場面での内面を振り返らせるなどの発問を通して、まどかが感じている心の葛藤を追究させ、まどかが大切にすればよかったと思う意義や心構えについて追究させるようにする。

その際、重点とした指導内容にかかわる考えに着目させ、その時に生じる心の弱さや、そのことにより生じる葛藤を乗り越えた後のよさについて、対話活動を通してさらに深く広く追究させ、重点となる指導内容にかかわる意義や心構えに迫ることができるようにする。

ウ この内容にかかわる自己の生き方についての考えを深め、これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めるために、授業を通して強く共感するようになった意義や心構えについて、これからの生活の中でどのようにかかわっていききたいかといった視点でワークシートにまとめさせ、自分のこれからの生き方について具体的なイメージをもつことができる場を設定する。

3 本 時

(1) ねらい

- ア 自分の特徴に気付き、よい所を伸ばしていくことにかかわる自分自身の生き方を見つめ、自分自身のもつ心の葛藤を乗り越えて、自分の特徴や自分のよい所を伸ばしていくことのよさを理解し、自分のよい所を伸ばすことに意欲的に取り組みながら生活していこうとする気持ちを高めることができる。
- イ 自分の特徴に気付き、よい所を伸ばしていくことにかかわる見方・考え方・感じ方を自らの体験場面での内面と関係付けて類推しながら深めたり、広げたりすることができる。
- ウ あきらめや無関心などの心の弱さから、自分の特徴に気付いたり、よい所を伸ばしていくことができなかつたりことがあることに気付くとともに、自分の特徴に気付いたり、自分のよい所を伸ばしたりすることのよさを理解し、自分の特徴に気付き、自分のよい所を伸ばすことの意義や心構えの大切さを理解することができる。

(2) 本時の展開に当たって

まどかの心情や心情の変化に十分共感させるために、まどかの立場に自分を置き換えさせたり、生活場面での体験を想起させ、そのときの内面と関係付けたりしながら考えさせる。

また、対話活動を通して多様な見方・考え方・感じ方と触れ合う中で、重点とした意義や心構えに迫ることができるようにするとともに、そのこととどのようにかかわっていくかという視点で、これからの自分の生き方について具体的なイメージをもつことができるようにしたい。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
気付く	1 自分のよい所を伸ばしたいという思いや、自分のよい所を伸ばすことができなかつたときの気持ちを発表し、考えていきたい問題に気付く。 自分のよい所を伸ばしていくためには、どんな気持ちや考えをもつことが大切だろう。	(分) ↑ 7	○ 自分のよい所を伸ばすことについて、こうありたいという自分の思いと、自分のよい所を伸ばすことにつながる行動ができなかつたときの気持ちを対比させ、その矛盾から問題意識をもたせる。
さぐる	2 資料「あこがれのキャプテン」を読んで、自分の特徴に気付き、よい所を伸ばすことにかかわる生き方について話し合う。 (1) まどかの言動や心情、心情の変化について感想をもち、発表する。 (2) まどかの心の弱さや迷い、コートの外で考えている場面での心の背景や気付いた意義・心構えについて話し合う。 【心の弱さ】 Tシャツの方が大事。(思慮不足) ↓ どうせむりだ。(あきらめ) ↓ 自分のよさがわからない。(無関心) 【コート外でのまどかの気持ち】 ・自分があこがれていたのはあすかさんの格好ではなかつた。 ・自分らしいプレーをすることが大切だな。 ・自分もあすかさんのようなキャプテンになりたい。	18	○ 資料を感動的に読み取らせるために、録音CDや場面絵を効果的に活用する。 ○ まどかの心情や心情の変化に十分に共感させるために、資料一読後の感想から、あかねに懂れている場面やコートの外で考えている場面に焦点化する。 ◎「まどかさんは、あかねさんのどんなところに懂れていたのだろう。」 ○ まどかの心情や心情の変化への共感を高めるために、まどかの立場に自分を置き換えて考えさせたり、生活場面での体験を想起させ、そのときの内面と関係付けたりしながら考えさせる。 ◎「まどかは、どんな気持ちや考えを大切にすればよかったのだと思いますか。」 ○ 自分の特徴に気付き、自分のよい所を伸ばすために、まどかが大切にすればよかったと思う意義や心構えについて考えさせ、発表させる。
見つける	【意義】自分のよさが理解できる→自分の成長を感じる→自分を高めたい→相手も喜ぶ→互いに認め合うことができる→互いに助け合うことができる→互いに成長していくことができる 【心構え】なりたい自分の姿を考える、自分のよさを考える、自分に自信をもつ、自分にとって大切なことを考える、先のことを考えて行動する、目先のことにとらわれない、人の忠告を受け入れる など	13	○ 重点とする指導内容にかかわる意義や心構え、それを阻む心の弱さへの見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりするために、意義や心構えを大切にすることの難しさを意識させる発問を通して、重点とする指導内容にかかわる考えに着目させて考えさせる。 その際、そのことにかかわる意義や心構え、そのことを阻む心の弱さについて、マグネットシートを使ってそれぞれの立場を明確にさせた上で対話活動を行い、重点とする指導内容にかかわる意義や心構えについて深く広くとらえられるようにする。
深める	(3) まどかの生き方を振り返り、自分の考えと友達のことを比べて、感じたことや考えたことを発表し合う。 3 学習したことを振り返り、自分の特徴に気付き、よい所を伸ばすことについて、どんな気持ちや考えをもつことが大切か、自分なりの考えをまとめる。 自分のよい所を伸ばすために、なりたい自分の姿をしっかり考えていきたいな。 目先の楽しさにとらわれずに、自分に大切なことはきちんとしよう。	7	○ これからの生活の中で、自分の特徴に気付き、よい所を伸ばそうとする意欲を高めるために、学習の振り返りを通して、自分なりの考えをまとめて発表させる。 その際、自分のこれからの生き方について具体的なイメージをもつことができるようにするために、授業を通して強く共感するようになった考えについて、「目指す生き方」や「学びを生かすことのできる場面」、「学びを生かすことを阻む心の弱さ」の視点から、自分自身のこととして考えさせ、まとめさせる。
見通す	4 自分の特徴に気付き、よい所を伸ばすことを進んで行うことについて、教師の話聞く。		○ 自分の特徴に気付き、よい所を伸ばすことにかかわる説話をを行い、余韻をもって終わるようにする。